

◆急性腎不全＝脱水状態や手術時の出血などで、体内の水分量を元の状態に戻そうとして腎臓が働き過ぎた結果、腎機能が急激に低下する障害で、タンパク尿や血尿などの症状が現れます。すぐに適切な治療をすれば元の状態まで回復しますが、放置すると慢性腎不全に移行しやすいので、早めの治療が大切です。

腎臓(じんぞう)は、血液中の不要な物質や水分を排泄し、血液の成分を一定に保ちます。この働き(腎機能)が正常時の30%以下になり、尿中に排泄されるはずの老廃物が体内にたまる病気が「腎不全」で、次の二種類があります。

る病気で、進行すると尿毒症になります。自覚症状の無い腎臓病（慢性腎炎）が長年続いた後の発病が多く、糖尿病からの移行も増えています。

心と からだの栄養

能岡 浩 [41]

症状は無いが、長年の間
に体内にたまつた老廕物
が害を及ぼして、次第に
『全身のだるさ』・吐き気
・食欲不振・体のむく
みなどの症状が現れる
ようになります。さらに

負担をかける塩分を制限します。糖尿病の進行から腎不全は、毎日の食事量と栄養バランスの工夫が重要で、医師の指示に従いましょう。

◎血液透析　腕の血管に針を刺し、血液を体外に出して透析器に送り込んで患者の血液をきれいにします。大きな血球・血小板やタンパク質は通さず、尿素や水などを通す透析膜（半透膜）が透析器の中に入り、膜の中に血液を、膜の外には透析

た部分)内に細い管を入れて、透析液を注入します。腹膜には無数の血管が走っており、この血液中の老廃物が濃度差により透析液へ出ます。一回約30分、一日4回ほど透析液を入れ換えます。

での生活を見直し、精神的・経済的に自立の道を歩まれる良いご縁になるかもしません。あせらず、治療に専念している間に、自然と道は開けてくるのですよ」と忠告されたそうです。

での生活を見直し、精神的・経済的に自立の道を歩まれる良いご縁になるかもしません。あせらず、治療に専念している間に、自然と道は開けてくるのですよ」と忠告されたそうです。

- 失った腎機能を回復することができないので、この治療が必要です。
- 食事療法 II 体内で老廃物が生じやすいタンパク質の摂取を控え、腎臓下になると尿毒症となり、命にかかわります。

●透析療法 II 腎機能が端に低くなつた時、人工的に老廃物を体外に排泄し、血液をきれいにすて治療法です。現在の日本では年に約3万人が新たに透析療法を受け、その多くは60歳前後です。

ると老廃物が血液から透析液へ出て、血液は浄化されます。一回の透析に約4時間がかり、週3回受ける必要があります。

○腹膜透析＝腹膜（腹部の臓器を包む半透膜）を利用して血液を浄化します。腹腔（腹膜に包まれ

結果、部長への昇進が
まりましたが、過労かこ
慢性腎不全になり『透析
療法が必要』と診断され
ました。それでも昇進を
諦め切れずに「今まで通
り仕事を続けて、部長に
なりたい」と、M医師に
相談しました。すると医
師に「命と部長の席のど

食事・薬物・透析の治療必要

結果、部長への昇進が決まりましたが、過労から慢性腎不全になり『透析療法が必要』と診断されました。それでも昇進を諦め切れずに「今まで通り仕事を続けて、部長になりたい」と、M医師に相談しました。すると医師に「命と部長の席どちらが大事なんですか。昇進しても今の病状では部長の仕事は無理だし、自分が苦しむだけです。あなたが病気になったことで、家族の方々も今までの生活を見直し、精神的・経済的に自立の道を歩まれる良いご縁になるかもしれません。あせらず、治療に専念している間に、自然と道は開けてくるものですよ」と忠告されたそうです。